

共に歩む市民の会 会報

1998年2月18日 発行
たまり場広報委員会

創刊号

番号 241-0005
横浜市旭区白根3-2-5
電話 045-953-6777
入

感謝をこめて

「共に歩む市民の会」代表 高橋 福男

大きな門をくぐり敷石をたどると窓から温かな光がこぼれ人の声がもれてくる。ほっとして中に入ると、日中は柔らかな冬の陽差しが奥まで届く続き間では、3、4人が何やら楽し気に談笑している。次の間では一人CDに聴き入っている人がいる。前の廊下の隅では籐のソファにゆったりと座り庭を眺めながらタバコを吸う人が2、3人——「たまり場」ではこんな風景がすっかり日常のものとなり4か月がたちました。

「むくどりの家」の新築移転に伴い、この家を何かの形で利用できないだろうかと話が持ち上がったのが昨年の夏。旭区内の作業所、グループホーム職員や保健所のケース・ワーカー、病院関係者が集まり「会」の性格付やルールづくりなど蚊取り線香をたきながらの夜の会合も毎週のように開かれました。最大の難関であった財源もせっかく生まれた相互のつながりを形にしていきたいとの共通の想いの高まりや出席していた利用者の積極的発言に励まされ、会員、賛助会員を集めることで何とかクリアし12月6日の総会を迎えることが出来ました。そして今、予想をはるかに越える利用状況に感激し、このような「場」が必要とされていたことを改めて痛感しています。

小さな試みではありますが、家族の利用などこれからも様々な可能性を模索していくければ、と思います。関わりを持ち支えて下さった皆様方への言い尽くせぬ感謝と共に、今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。寒さのなか石楠花の蕾も心持ちふくらんできました。春を待つ「たまり場」の庭の木々ももうすぐ目覚め、豊かな季節の彩りを見せてくれることでしょう。

たまり場に寄せて

GH（グループホーム）の職員として、生活の「場」を入居者に、自由で安全かつ快適な環境で過ごしてもらいうかということを常々考えています。入居者の生活経験がより豊かになっていく時、「居住」として以外の「場」が数多く必要となっていきます。生活空間以外に彼らにとって落ち着ける「場」ができるとしても良い機会に感じます。

そんな思いから、これからもこの“たまり場”の場づくりに関わってみたいと思っています。

グループホーム ハイツ川井 喜田 博美

“たまり場”。何と暖かい言葉だろう！陽が溜まる・水が溜まる…。

庭先から少し入って玄関があり、なにか別荘へでも来た気がします。部屋は和室で庭には池があり、炬燵を囲んでミカンでも食べていると、シ十年前にタイム・スリップしたようになります。横浜マックの女性達のミーティング場にはピッタリの環境です！ここで心を落ち着けて、回復の土台を作ってくれると思います。多くの人達とも交われる場であってほしい。

横浜マック・デイ・ケア・センター 星野

“たまり場”へ来ると日々の喧騒から離れて心和みます。何か私たちが遠い昔に忘れ去った風景がそこにはあります。庭に実っている夏みかんの木が特に気に入っています。絨毯のように咲いているピンクの何とかソバの花も…。土曜日は行く所がなくて…、夕暮れは淋しい…。などの声を良く耳にします。そんな人たちが様々な出会いの場がもてたらなぁと思います。そういう私もこの活動の中で新しい人たちとの出会いが持てました。ゆったりと流れる時間を皆さんと過ごせたら…と思っています。

まゆの家 井上 恭子

11月の、のどかな昼下がり、デイケアの皆、と言っても5人でたまり場に行きました。S君はさっそく炬燵に入ってゴロンとし、たまり場のご案内の表紙の猫のように気持ち良さそうにお昼寝を始めました。まるで、ずっと前からの住人のように寝転んでいる彼は、とっても偉せそうで、私はこんなにも超越した和やかさを提供できるここってすごいトコなんだなあと実感しました。

尚、このたび、うるし原メンタルクリニックを退職することになりました。何もできないうちに去るのは残念ですが、お世話になり有り難うございました。この場を借りてお礼を申しあげます。

うるし原メンタルクリニック 松木 洋子

むくどりの家という場所であっただけにすぐに慣れましたが、水曜日と土曜日に仮称（共に歩む会）としてオープンしましたが12月20日土曜に出て来ましたが、1人でないということが、どれだけ楽しいか十分わかりました。今後もこの場所でいろいろな人と会うのが楽しみになってきました。

村上 通昭

いろんな作業所の人達の集まりの場と聞いて、どんな人達が集まるのか不安が少し、入りまじった感じでしたが、来てみて、自由に入り出しているので、うむがやすしで、不安と、複雑な気持ちがとれ、家に居る時のうっとしい気持ちが、ここへ来る事により、取れる、いい集まりの場のたまり場である、これからも利用したい楽しいそんな集まりのたまり場であってほしい。

ウイングス 渡辺 泰子

お金の話

「最初に場所ありき」で始まった「たまり場」、次にくる夢や理想も、やはりお金が無くては実現不可能です。そこで皆が知恵を出し合って考えたのが、旭区ならではの豊かな資源、病院、クリニック、市民団体等の団体会員、通常の市民団体では考えられない1か月1,000円もする個人会員、幹事の知り合い全員に入って貰おうよという意気込みの賛助会員だったのです。

会員のなかには、他の区の家族会の方々、市のボランティア講座受講された方、白根地区の主婦の方々、市内のグループホームの職員の方など、いろいろな人達が入っており、この広がりの中できっと面白いことが出来るのでは、との予感もします。

今までのところ、収納率は団体会員費100%個人正会員83%ですが、今期の終わりには、完全収納すべく会計は‘鬼の取立人’となりますのでご覚悟のほどを！

会計 小田・綿貫

1997年10月~12月会計報告

1997年12月末日現在

収入の部	予 算	決 算	備 考
会費収入 個人正会員	600,000	495,000	67人 115口
団体正会員	450,000	450,000	10団体15口
賛助会員	75,000	120,000	35人 40口
寄附金	25,000	32,000	ぬか病院DC
利用料 個人	15,000	32,771	なぬ会こば
利用料 団体	15,000	5,500	
借入金	0	400,000	
雑収入	0	10,000	荷物保管料
	1,180,000	1,555,271	
支出の部	予 算	決 算	備 考
家賃	720,000	360,000	
光熱費 電気代	30,000	9,513	
ガス代	30,000	11,730	
水道代	12,000	2,814	
灯油代	10,000	2,670	
通信費 電話代	30,000	7,319	
郵送料	7,200	6,000	総会用
消耗品費	24,000	31,094	
会議費	12,000	2,662	
備品(電話機)	30,000	31,290	
電話設置費	76,440	76,440	
物件仲介手数料	63,000	63,000	
雜費	19,360	1,259	送金手数料
予備費	116,000	10,500	ゲーム類
繰越		928,980	
	1,180,000	1,555,271	

通帳 923,835 借入金 400,000
現金 5,145

資産 528,980

928,980 928,980

†「共に歩む市民の会」総会報告†

去る1997年12月6日（土）13時30分より、障害者活動ホームあさひにおいて「共に歩む市民の会」設立総会と第1回総会が開催されました。

9月1日より準備会を発足、週1回のペースで会合をもち、実施主体となる「会」の性格付け、会則作りから運営、管理方法に至るまで検討を行い、10月15より水、土曜日の試験期間を経て11月1日「たまり場」のオープンとなりました。これは多くの賛同する個人、団体、関係機関の協力、支援を得られたからであり、まず感謝申し上げます。

* 12月6日現在の会員数：個人正会員67名、団体正会員10名、賛助会員35名

総会出席者数 25名 委任状 31名

総会においては、まず準備委員である川田剛より、事の起りから「たまり場」オープンまでの経過報告が説明された後、議長に徳江昭午氏、書記に青柳奈美氏が選出され、第1号議案「共に歩む市民の会」規約案、第2号議案1997年度事業計画案、第3号議案1997年度予算案、第4号議案1997年度役員案が提出され、検討されました。

第1号議案においてはミスプリが指摘され、また第2号議案においては利用している会員より、入浴サービスを実施してほしい、お茶・コーヒーの利用料を50円で自由に飲めるようにしてほしい等の要望が提出され、幹事会で設備面・予算面を考慮しながら検討する事とし、全ての議案が拍手により承認されました。

総会終了後「たまり場」にて交流会を行い、和やかな一時を過ごしました。

第4号議案1997年度役員

役割	氏名	所属
代表	高橋 福男	あけばの会
副代表	紺野 義彦	神奈川病院
事務局長	川田 剛	むくどりの家
会計	小田 敏子 綿貫 展数	サンハイム都岡 ウイングス
会計監査	春原 満 原田 恵子	あけばの会 旭保健所

とある日の「たまり場」より

庭の落ち着いたただずまいが昔の面影を残し人の心を和ませてくれる。 福島 国雄・福島 昭仁

雨の中、一人で原チャリで読書しにきた。いいところだ。今度、みんなで料理をつくろうと思う。

神奈川病院デイケア 渡辺 真理

バス混んでて 19:00着いたのに、あったかいご飯もらって、おかわりして、心もHOTになりました。うめーうめー、また食いてー、早く23日になあれ。

目つきの悪さは、緊張です。悪気ないんです。

神奈川病院デイケア 小林 薫子

一番乗りだった、だあれもきていたなかった。

ウイングス 渡辺 泰子

二番乗りだった、一人来ていた。

むくどりの家 岩渕 勝昭

玄関を入った時から自分の家に帰ってきた様な気分です。また寝に来たい!!花見もしたいこんなに素敵な日本家屋、どうぞずーうっと残してほしいです。 鮎沢 典子

「たまり場」の利用状況

	開所日数	(うち夕食会)	延べ人数
10月	7日	一回	53人
11月	10日	2回	127人
12月	11日	2回	139人
1月	12日	2回	110人

冬はコタツでぬくぬくと日なたぼっこしたいなー。

山口 美智子

ここは、まどいがあります。

マインド葦 島田 源

「たまり場」何がたまっているのかなあ?。みんなで地面を掘っても何も出てこない!!。
今からためていけばとってもハッピーなものがたまるハズ。

ウイングス 編貫 展数

あっと言う間にできた「たまり場」。これからもゆったりとした空間を作つて、皆とゆかいにやっていきたい。

志田 信司

デイケアに通えなくなつて、既に2ヶ月が過ぎていた。毎日、お米をとぐことしか、やらなくなつていて、いろんな人に電話をかけてみたり、広告の裏に、心の不満やイライラを、何時間も書き続けるだけで、時間が終り、夜も結局、ずっと布団に入り、枕元にリモコンを置いて、調子の少し良くて、ビデオ。ほとんどの日は、テレビをずっと見ていた。折角身についた、生活のリズムを無くし、途方に暮れていた。夕食会で夕食を頂いて心がほぐれました。

A. K

私がたまり場に行く様になって

私自身が新たなる人生基盤が、築かれて、行く様な思いがしてなりません、偽りのない人々が集まり、青年等と大いに語り大いに遊び、あたたかな人間の、心と心の触れ合いが有る所、それがたまり場です。

青坂

<編集後記>

◇利用者、スタッフの「たまり場」への熱い想いをお伝えすることができたでしょうか。「想い」は次号もお届けする予定です。（吉田）

◇何はともあれ、記念すべき創刊号、号を重ねるごとに益々内容の充実をはかるべく頑張ります。皆様の原稿だけが頼りです。（松迫）

◇この原稿をプリント・アウトしている時、ワープロが煙をあげて壊れてしまいました。次回も、煙をあげてくれるような熱い想いを募集します。早くワープロを修理しなきゃ！。（沖柳）

